

第11回資源・エネルギー新技術部会 議事録（概要版）

1 日時：令和5年（2023年）6月7日（水） 14：00～16：00

2 場所：滋賀県大津合同庁舎 7-A会議室

3 出席委員等：（五十音順、敬称略）

大下和徹委員（部会長）、只友景士委員、藤本裕之委員、松井三郎委員

【全4委員、出席4委員】

（事務局：技監（下水道担当）、下水道課長、下水道課関係職員）

4 開会あいさつ等

- ・事務局、山崎技監挨拶
- ・各委員の紹介
- ・大下部会長の就任挨拶

5 議事内容

（1）東北部浄化センターの汚泥処理方法の基本方針について

事務局より資料2に基づき説明。

・付加的技術というところは、P27の表のどこにあたるか、もしくはどこに入れ込むか。〈委員〉
→表は焼却と燃料化と肥料化の三つを基本的な処理方式としており、付加的技術は表には入らない。選定された基本的な処理方式にリン回収や、創エネなどの、付加価値となる技術を付け加えるイメージで考えている。〈事務局〉

・P27の評価方法は、なじみのある評価方法であるが、この基本構図は変えずに検討を行うのか。〈委員〉

→この基本構図で選定した処理方法に対して、付加的な技術を加えていきたい。〈事務局〉

・P30の全体の制約条件で検討条件①の現場における制約条件のうち、処理場用地の拡張の「大規模造成が必要で、周辺環境への影響が大きい」ほどのくらいの見込みなのか。〈委員〉

→周辺の山地は浄化センターの敷地であるが、山地の造成には多大な労力とコストがかかり、わずかな土地を切り開くために山の上から切り崩して造成するのは難しい。山地造成についても整理してみるが、基本的には現在ある平地で検討を行う方針である。〈事務局〉

・下水量のピークに達した後、建設中のA系列の水処理施設の土地は全て水処理で使ってしまうのか。〈委員〉

→計画上はそのようになっている。〈事務局〉

・最初の案からメタン発酵は検討していないが、土地の問題を解消して、メタン発酵を取り入れることはできないのか。〈委員〉

→メタン発酵は、敷地の問題、返流水の問題もある。湖南中部ではメタン発酵を導入したが、一部の汚泥にのみ適用して、返流水負荷を軽減している。東北部も同じような検討をしてみるが、敷地の面から実現可能なレベルであるか、また水質を悪化させることがないのかを改めてチェックする必要があると考えている。〈事務局〉

・処理方式を決めたうえで事業方式を決めるという流れになっているが、事業方式を決めたうえで処理方式を事業者提案してもらい決めてはどうか。〈委員〉

→敷地の制約などにより、実施可能な方法は限られることや、事業者提案に任せると提案が多岐にわたり、処理方式の選定が困難となることが予想されるため、県で処理方式を選定する方が効率的と考えた。〈事務局〉

・評価方法のうち、STEP1 は今までのやり方であるが、STEP2 は東北部の基本方針が盛り込まれた新たな評価方法という認識でよいか。〈委員〉

→そうです。STEP2 はいろいろな技術開発を対外的に説明可能な形で評価していくことを考えていて、このような形で評価したい。〈事務局〉

・現在は高島にコンポストを導入した時と状況が異なり、地球温暖化と生物多様性の問題が大きくなっている、また滋賀県は「環境こだわり農業」など先進的に農業の環境改善に取り組んできたという背景があるため、汚泥処理方式検討の項目のうち、地域貢献の項目に農業との関係性を評価する項目を入れてみてはどうか。〈委員〉

→評価の中にどのようにして「農業への影響」の項目を入れることができるか、検討する。〈事務局〉

・下水汚泥の肥料を作ったが、受け入れ先がないという状況を防ぐために、県の農政部局に下水汚泥の肥料が本当に使われるかどうかを調べてほしい。〈委員〉

→農政部局や JA に対してヒアリングを計画している。〈事務局〉

・滋賀県が地方自治体として、国際的に要求されていることを察知して、それらについても反映すべきではないのか。また国際的な視点として、SDGs 等に触れてもいいのではないか。〈委員〉

・「付加的技術の検討」と書いてありますが「付加価値を創造する技術」と言い換えてはどうか。〈委員〉

・P33 処理方式の選定について、事業に係るコストだけではなく、事業によって得られる価値を金銭換算して、価値を算出するのか。事業コストと技術による創出価値を評価し、総合的に評価するシステムがいい。〈委員〉

・焼却によって出てくる温室効果ガスのうち、一番多いのが N2O であるため、何らかの技術的導入でもう少し削減できれば良いと思う。〈委員〉

・汚泥処理の今後の検討は、含水率 75%程度の汚泥を送泥する技術の探求か、また施設配置の検討を行うか、どう考えているか。〈委員〉

→送泥システムの見直しか、施設配置検討を考えている。〈事務局〉

・臭気の問題が考えられるが、今まで近隣住民からクレームはあったのか。〈委員〉

→昔はあったが、最近では直接的なクレームはない。〈事務局〉

・臭気問題に配慮して汚泥運搬を圧送方式としているが、他の技術的な解決策が見つかることを期待する。〈委員〉

6 閉会あいさつ